



アジア初開催！ WWA ウェイクボード世界選手権大会 WORLD CHAMPIONSHIPS 2018 IN MIYOSHI JAPAN

昨年引き続き三好市に世界選手権がやってきました。今年の競技はウェイクボード！時折通過する列車の音が湖面に届くほど静かな山あいの湖で世界屈指のアスリートたちが世界一を競う熱い闘いを繰り広げました。素晴らしいコンディションの中でのトップパフォーマンスは多くの観客の記憶に残る時間となりました。今月号の市報では、その熱い夏の4日間を振り返ります。

Day1 大会1日目

台風20号の影響で、少し水かさの増した吉野川池田ダム湖で、水上スポーツ「ウェイクボード」の世界選手権が8月30日に開幕しました。三好市では昨年のラフティングに引き続き2年連続での世界大会の開催となり、約1年前から組織委員会を組織して大会の準備を進めてきました。大会前日には、スポンサーロゴが鮮やかな2艇のモーターボートも池田湖に浮かべられ、大会の準備が整いました。今大会には、欧米やアジア、アフリカなど34か

国から147人が出場、9月2日までの4日間、水上での熱い闘いが繰り広げられました。大会初日には、アマチュア10部門の予選が行われ、選手はモーターボートが作り出す波に巧みに乗りながら、豪快なジャンプを披露。空中で繰り出される技の難易度やジャンプの高さなどを競いました。会場では地元の小中学生や国内外から詰めかけた約600人が観戦し、初めて見るウェイクボード競技に大きな声援を送りました。競技や特設ステージの様子は、大型ビジョンで会場内にライブ中継されたほか、池田ケーブルネット

トワークによるライブ放送やウェブでの配信など随時、情報発信がされました。



大会スケジュール

月日	時間	競技
8/30	9:00 ~ 15:00	アマチュアクラス 予選・セミファイナル
8/31	9:00 ~ 16:00	アマチュアクラス ファイナル ジュニアプロ MEN 予選
	18:00 ~ 20:30	オープニングセレモニー&レセプションパーティー
9/1	9:00 ~ 17:00	アマチュアクラス ファイナル
		プロウェイクスケートクラス 予選
		ジュニアプロ MEN 予選
		プロ WOMEN クラス セミファイナル
		プロ MEN クラス 予選
		アマチュアクラス表彰式
9/2	10:00 ~ 15:00	ジュニアプロ MEN ファイナル
		プロ MEN クラス セミファイナル
		プロウェイクスケートクラス ファイナル
		プロ WOMEN クラス ファイナル
		プロ MEN クラス ファイナル
		ファイナルセレモニー
		プロ MEN クラス ファイナル
		クロージングセレモニー



オープニングセレモニー&レセプションパーティ



午後6時から行われたオープニングセレモニーには、世界から訪れた選手のほか、大会関係者など350人が出席しました。

式典では、大会組織委員会会長の飯泉知事が「国内外の方々に吉野川の魅力を体感いただけてうれしい」、世界ウエイク協会のシャノン・スターリング会長が「全ての人に感謝し、最高の週末を一緒に迎えよう」とのあいさつがあり、組織委員会副会長の黒川市長が開会を宣言しました。

レセプションパーティでは、地酒や地元食材を使った料理が振る舞われたほか、はるな愛さんの歌や市観光連の阿波踊りもあり、会場は大いに盛り上がりました。

午後8時には、花火も打ち上げられ、湖面を彩る様々な花火に参加者は大喜びでした。



Day2 大会2日目

初日に続き、好天に恵まれた大会2日目も、湖面の上では熱い闘いが繰り広げられました。この日はアマチュアクラスの決勝、ジュニアプロMEN（男子）の予選が行われました。

世界選手権としては、初の国内開催ということもありアマチュアの多くのクラスでは日本人選手が上位入賞を果たしました。

午後5時からはアマチュアの優勝選手によるデモンストレーションが行われ、高いジャンプからの後方宙返りなどの豪快な回転技を繰り出し、詰めかけた観客を沸かせました。



私がWWAのステージで4日間ライブ出演した理由は、自分が地元のイベントに出演することで少しでも若い世代の方たちに地元に興味を持ってもらえればとの思いで出させていただきました。

ステージに立ちたいと応募する度胸ある私ですが、MCが苦手な、人の目を見るのが怖く叫びたくなるほど緊張しました。最終日は周りの大人の力をお借りし、憧れのフルバンドの形で歌わせていただき、年代関係なく共に楽しむ姿に感動し、やっぱり音楽は素敵だと感じました。

自分でもいつまで続けられるかわかりませんが、やりたいやれると思う気持ちが消えない限り音楽で地元を元気付けたいと思います。今回の私のライブを見て下さった方には「憧れは声にしていんだよ」と伝われば嬉しいです。



YuMeバンド YuMeさん

4日連続でステージに出演していただきました



ハウオーズマサコアケタ
フラワースタジオ

やましろ AKB

阿波池田タバコ踊り保存会

Sacra e sole

長浜 有美

四国銀行



YuMe バンド

KEMURI WORKS

Blues Labo

HALUKA

スタジオ FUN

DJ リョウガ

ゲートミュージック

yuyu with enri

濱松里緒菜

特設ステージでは、大会の4日間、市内の出演者や徳島県に縁のあるミュージシャンやダンサー、阿波踊りなど多くのパフォーマンが大会を盛り上げました。

特設ステージの隣には、飲食のキッチンカーが集まる「あたたマルシェ」エリアも設置され、選手や観客でにぎわいました。



4日間特設ステージを盛り上げたMCの中山女子短期大学さんと大田明奈さん

会場を盛り上げた
多彩なステージパフォーマンス



Day3 大会3日目

期間中唯一の悪天候となった大会3日目には、男女のトッププロ選手が登場し、高度な技で観衆を魅了しました。

今大会が節目の第30回となるWWAウェイクボード世界選手権は、プロアマチュアの世界を決める最も権威ある大会であり、プロ選手にとっては、世界各地を転戦するワールドシリーズ2018の最終戦も兼ねるため、国内外のトップ選手による白熱した優勝争いが繰り広げられました。

プロ男子は、ワールドシリーズ2018のランキング1位ハリ・クリフォード選手（オーストラリア）ら24人が出場。4組に分かれて予選を行い、各組上位4人が準決勝に進みました。

16人が出場したプロ女子は、準決勝を行い、ランキング1位のメーガン・イーセル選手（アメリカ）ら6人が決勝に勝ち上がりました。



イケダコイレブン 世界の舞台で堂々のライディング!

大会3日目には、昨年7月に結成した地元の小学生チーム「イケダコイレブン」が登場。結成当初はボードに立つことさえままならなかった子どもたちでしたが、世界選手権の舞台では湖面を滑らかに滑走し小さくジャンプするなど、堂々とした演技を披露し、6人が翌日の決勝に勝ち上がりました。地元選手の奮闘に大きな声援が送られました。



田崎名菜さん

千葉結那さん



松尾優太くん

栗尾煌矢くん



三木なな美さん

山下鉄平くん



三木こ美さん

内田一花さん



八木澤来太くん

森脇樹奈さん



日本を体感

選手たちは着物やお茶など日本文化にもふれることができました



質問▽今回大会を開催されたお気持ちをお聞かせください。
 会長▽おそらく今までの歴史の中で一番良いものだったと思います。
 質問▽今回の開催地である池田湖の感想をお聞かせください。
 会長▽雨の影響で水の透明度がいつもより悪かったように思いますが、最終的にはいいコンディションでできたと思います。
 質問▽私はウエイクボードを池田湖でしか見た事がありませんが、他の日本での開催では、川や海を使うのが一般的なのですか？
 会長▽やはり自然の川とか湖を探そうと努力しています。その方がやっぱりアクセスも容易で地元のコミュニティとの調和もはかりやすいです。造成地や遠隔の私有地に比べると自然がいいです。
 質問▽探されていたということはあまり無い場所と言う事ですか？



Interview 世界ウエイク協会 シャノン・スターリング会長に お聞きしました。

会長▽やはり池田湖のような場所です。まずこういう場所は見つかりませんが、地元の方などがサポートしてくれたから開催できました。
 質問▽地元の方のサポートという言葉がありました。おもてなしの部分ではいかがでしたか？
 会長▽やはり日本のおもてなし文化はすばらしく、その文化をプラウドを持ってやっている。その文化と人ゆえ、私にとって日本は世界で最も好きな国のひとつです。
 質問▽最後に、三好市民にメッセージをお願いしますか？
 会長▽ウエイクボードは私の子どものようなもので30年間育ててきたこの大会を盛大に開催してくれて本当にありがとうございます。そして世界に三好市の文化に触れる機会を与えていただきありがとうございます。



多くの市民の皆様の応援のおかげで世界大会は、みんなが笑顔の素敵な大会になりました。そして、イケダ湖の素晴らしい環境を世界中の人々に伝える事ができました。

8月30日からの4日間、イケダ湖に34ヶ国、147名の選手、そして約11,000人のギャラリが集まりました。来場者からはアメージ

ング(驚くほど素晴らしい!)という言葉の連発でした。

2015年の秋にはじめてイケダ湖を訪れた時に、ここは世界有数のウォータースポーツのメッカになると想像しました。そして、多くの人のアメージングという言葉聞いて、三好市の川と山は、人びとに笑顔をプレゼントする観光資源になりうると確信をしました。近い将来、

イケダ湖をはじめ水辺が楽しむ人びとで賑わい、ウォータースポーツで世界を目指すキッズ達の声が響き渡り、川と山が地域の人びとの誇りとなって地域を元気にすることになっていくことでしょう。

いよいよアウトドアスポーツの力で地域創生させるキックオフです!みんなで徳島県三好市の未来を創造していきましょう!

アメージング! MIYOSHI CITY



地域おこし協力隊・アウトドアスポーツ推進担当 (アジアウエイクボード協会理事長) 薄田克彦



プロ WOMEN クラス優勝者
メーガン・イーセル選手



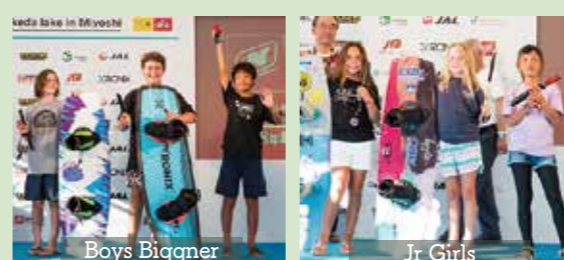
Day4 大会最終日

4日間にわたりに行われてきた WWA ウエイクボード世界選手権大会2018

が最終日を迎えました。
 好天に恵まれた最終日の池田湖では、プロ選手による男女の決勝が行われ、プロ男子はハリー・クリフォード選手(オーストラリア)、プロ女子はメーガン・イーセル選手(アメリカ)が優勝しました。クリフォード選手は、ボードの中央を片手でつかみ、後方に2回宙返りをする大技などを披露。イーセル選手は、横回転と縦回転を組み合わせた技や後方宙返りなどを繰り返し出しました。
 今大会の成績が世界ランキングどおりの結果となったため、「ワールドシリーズ2018」の成績においても、2人とも今年の世界チャンピオンに輝きました。
 地元の小学生チーム「イケダコイレブン」の6人は、アマチュアの4部門で決勝に進出。松尾優太選手(池田小6年)がボーイズ初心者部門で、三木ここ美選手(白地小3年)がジュニアガールズ部門で、それぞれ3位に入賞する健闘を見せました。

クロージングセレモニー(表彰式)

特設ステージで行われた表彰式には選手や大会関係者ら約200人が出席。飯泉知事や黒川市長らから各カテゴリー上位3選手には鹿の角をあしらったトロフィーが、年間優秀上位3選手にはクリスタル製の楯が贈呈されました。最後に、黒川市長の閉会宣言で4日間の大会の幕が閉じられました。
 期間中の観戦者は約1万1千人にのぼり、次回大会は来年はメキシコで開催される予定です。
 2年連続の世界大会を無事終えた三好市では、今後もラフティングやウエイクボードなどで交流人口を増やすウォータースポーツのまちづくりを継続して進めてまいります。



イケダコイレブン
松尾優太くん 3位入賞

イケダコイレブン
三木ここ美さん 3位入賞



プロ MEN クラス優勝者
ハリー・クリフォード選手